

HBK Collection Instruction Manual

【無垢フローリングの取り扱いについて】

《はじめに》

無垢フローリングは天然木のため、現場での保管状態、使用環境により、節割れ、反り、狂いなどが発生する場合があります。無垢材の特徴をよくご理解の上、施工をしてください。

《事前の確認》

ホームビルダーズ研究会で取り扱うフローリングは、室内専用フローリングです。屋外での使用はできません。また、コンクリート下地面への直接施工もできません。必ず下地組、捨て貼り合板の上に釘と接着剤を併用して施工をしてください。

床暖房を使用する場合は床暖房に対応した複合フローリングを使用してください。

無垢材のため、膨張・収縮が起こる場合があります。それらによって引き起こされる施工後の不具合を防ぐ為に、納品されたフローリングは必ず梱包を開梱し一週間以上放置して、現場環境になじませてから施工をしてください。やむを得ず現場保管をする場合は、水平方向に寝かせての保管をしてください。立て掛けての保管は反りの原因となります。

床下の換気環境、および下地合板の乾燥状態を確認してください。床下の換気環境は建築基準法施行令に適合させてください。床下の換気が十分でない場合、下地合板の乾燥状態が不十分の場合は施工後に床鳴り・暴れ・突き上げのような事象が発生する恐れがあります。

《下地の施工》

根太組工法下地とする場合、大引は90mm角以上の乾燥材を用い、その間隔は909mmとしてください。根太は45mm角以上の反りやねじれの無いプレーナー掛けした乾燥材を用い、その間隔は303mmとしてください。その際、必ずレベル（水平）にて施工をしてください。根太の上には厚さ12mm以上の耐水合板を捨て貼りしてください。根太と捨て貼り合板は接着剤と釘を併用して貼り付けてください。捨て貼り合板は段差が生じることの無いよう施工をしてください。

重量物（ピアノなど）を設置する場合は、大引き、根太の間隔を狭くする、捨て貼り合板を厚くする等の補強をしてください。

床下の湿気が多い場所には防湿処理をしてください。根太と捨て貼り合板の間に0.1mm以上の防湿シートを敷きこんでください。

《床張りの施工》

下地面は掃除機を使用し清掃を行い、木屑・埃等のごみが無い事を確認してください。床鳴り・たわみ・目違い・乾燥不良・釘の締め忘れ等が無い確認をしてください。それらの不具合がある場合は施工を中断し正しい状態にしてください。

無垢材の為、1枚1枚全て木目・節・色柄などが異なります。貼り始める前に仮並べをし、色・柄のバランスを確認し施工をしてください。

壁際等に小幅な材がこないように、割り付けを行ってから施工をしてください。また、下地合板（捨て貼り合板）とフローリングのジョイント部が重ならないよう、割り付けてください。

フローリングは釘と接着剤を併用し貼り付けてください。接着剤はフローリング張り用の弾性接着剤を使用してください。水性ボンドは床鳴りの原因となりますので使用しないでください。接着剤は床の裏面に塗布し、実の部分には入らないよう注意してください。釘は50mm以上のフロアネイル、間隔は303mm以内としてください。釘の角度は50～60度としてください。釘頭はポンチを使用し締め付けてください。

フローリング材の伸縮を吸収するため、壁際、敷居、掃き出し窓部分等では10mm程度（巾木の厚み以下）の隙間を設けてください。また、フローリング材のジョイント部分は、乾燥しているとき、湿気が多いとき、その時の環境に応じた施工が必要です。冬場の乾燥状態で施工する際は、名刺1枚くらいの隙間を開ける等の措置を講じてください。自然塗料で塗装された商品は、塗膜を作らないため木が呼吸をしています。そのため、常に収縮と膨張を繰り返していますので締めすぎないように注意をしてください。強く締めすぎると床材が膨張したときの反りや、突き上げの原因となります。

《養生の方法》

施工終了後は、ごみをきれいに取り除き養生シート、養生ボード等を張り、フローリングを保護してください。その際、フローリングには直接養生テープを貼らないでください。フローリング材にテープのりが残ったり、木材表面の繊維や塗装が剥がれる恐れがあります。やむを得ず養生テープを使用する際は、弱粘性のものを使用して下さい。

養生中も都度確認をしてください。養生テープの剥がれなどがあると隙間からごみ等が入りキズやへこみの原因となります。

養生期間が長くなるとフローリングに悪影響を与えます。湿気がこもり反り、突き上げ等の原因となりますので、湿気を取り除く等の措置を講じるようにしてください。

養生テープ、養生シート等を取り除く際は、ゆっくり丁寧に剥がしてください。